

# 出版平和堂 第54回 出版功労者顕彰会 開催



出版クラブ会報  
No.614

## 会長あいさつ

日本出版クラブ会長 野間省伸

(のま・よしのぶ)

「出版平和堂 第54回 出版功労者顕彰会」が、10月7日(金)正午より、3年ぶりに箱根芦ノ湖畔で開催され、関係者約80名が参集した。

前日から降り続く雨により、第一部式典会場を出版平和堂から箱根ホテルに移し、吉野和浩・出版平和堂委員の進行のもと、野間省伸・日本出版クラブ会長のあいさつで開会した。黙祷の後、矢幡秀治・日本書店商業組合連合会会長による新顕彰者名の奉告と、堀内丸恵・日本雑誌協会理事長による献詞が捧げられ、参会者全員による献花が執りおこなわれた。

引き続き、奥村景二・日本出版取次協会副会長による感謝のことが述べられたのち、第二部に移り、小野寺優・日本書籍出版協会理事長の献杯の発声により、和やかな雰囲気の中昼食懇親会が催された。

### 主な記事

- ▽出版平和堂 第54回 出版功労者顕彰会 開催……一・四 (挨拶) 野間 省伸、矢幡 秀治、堀内 丸恵、奥村 景二、小野寺 優、大坪 嘉春
- ▽トークショー会場として最高の場所である理由とは?……松下憲一さん、六
- ▽「出版クラブだより」とともに——上毛印刷が歩んできた道のり……大澤 丈太、七
- ▽〈出版歳時記〉 有隣堂がトヨタを抜く日……八

本日は、「出版平和堂 第五十四回 出版功労者顕彰会」にご出席いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

一昨年の第五十二回、昨年の第五十三回の出版功労者顕彰会につきましては、やむなく中止といたしました。今年三年ぶりに、こうして開催できることを大変うれしく思います。

出版平和堂は、我が国の出版界の繁栄を築き、出版文化の発展にご尽力いただいた方々を顕彰し、その功績を讃えるとともに、出版を通して、平和な社会を将来にわたって守り続けることを誓う、出版界にとって重要な記念碑です。

第五十四回を迎えた出版功労

者顕彰会に、新たに四名の出版功労者が加わります。明治以来、一、二二名の皆様のお名前が記銘板に刻まれ、皆様の心に深く、永くとどめられること存じます。

第五十二回の出版功労者四名ならびに第五十三回の十名の方々の記銘板も正面に掲額しております。ご家族、関係者の皆様にはご確認いただければ幸いです。

昨年、これまで出版平和堂を訪れることができなかった方々に向けて、出版平和堂のホームページ上に、門から通路、お堂の外観や、中の様子まで画面上で見られる紹介動画と写真をアップいたしました。機会がございましたら、ご覧いただければと思います。

最後になりましたが、日頃より出版平和堂へのご協力をいただいている箱根町行政の皆様はじめ、協力団体、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。同時に、出版平和堂へさらなるご理解とご協力をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

# BOOK MEETS NEXT

2022.11.23まで

期間中、全国の書店でイベント開催!

「出版平和堂 第五十四回出版功労者顕彰会」の開催にあたり、わが国出版文化の礎を築き、その発展に尽力してこられた諸先輩の御霊に献詞を捧げます。

出版平和堂は、出版関連団体の総意により、昭和四十四年に創建されました。ここに刻まれた物語者のご尊名に改めて接し、幾多の困難を乗り越え、出版界の今日を築き上げてこられた出版人の志に、万感の思いが

去来します。

本日新たに十八名の方々をお迎えし、第一回の合祀から合わせて一、二三名の方々を顕彰させていただくことになりました。参加者一同、衷心より敬意と感謝の意を捧げます。

現在、私たちを取り巻く世界は、依然としてコロナ禍の収束が見通せない状況です。またロシア・ウクライナ戦争も長期化の様相を見せています。この大

きな二つの危機が重なって様々な影響が多方面に出てきております。

このように先が見えない不安な時であればこそ、戦争や災厄に對峙してきた先人の知恵から解決策を得ることも多いのではないのでしょうか。

私たちは出版文化に携わる者として、先達の教えに学び、出版という仕事を通して多様な価値を世に問い、読者一人ひとり

の心をつなぎ合わせていくことが、私たちが取り組むべき大切な使命であるとの思いを強くする次第です。

これからも私たちは、世界平和と言論・出版・表現の自由、相互理解の心を胸に刻み、出版文化の大きな未来に向けて努力を重ねて参ります。ここに、出版界の歴史を築いてこられた諸先輩に献詞を捧げ、私たちの明日への誓いいたします。

文霊(ふみたま)に  
うつし世の平和のりつつ  
道にはげみし  
人をたたえむ



## 献詞

日本雑誌協会理事長

堀内 丸恵

(ほりうち・まるえ)



## 新顕彰者名奉告

日本書店商業組合連合会会長

矢幡 秀治

(やはた・ひではる)

### 第52回

(版元関係)

宮田 昇 殿

日本ユニ・エージェンシー社長

藤原 一晃 殿

白水社社長

渡邊 隆男 殿

二女社社長

宮部 高志 殿

斯文書院社長

### 第53回

(版元関係)

志村 幸雄 殿

工業調査会社長

入江 務 殿

星雲社取締役

秋田 貞美 殿

秋田書店社長

石川 晴彦 殿

主婦の友社長

山本泰四郎 殿

彰国社社長

(取次関係)

遠藤永七郎 殿

栗田出版販売社長

(書店関係)

谷口 光正 殿

愛知県教科用図書卸商業協同組合代表理事

安藤 實 殿

神奈川県教科書販売社長

奥村 弘志 殿

南天堂書房代表取締役

萬田 貴久 殿

万田商事オリオン書房社長

### 第54回

(版元関係)

大高 利夫 殿

日外アソシエーツ代表取締役

井上 瑩子 殿

井上書院代表取締役

(書店関係)

丸岡 義博 殿

廣文館書店代表取締役

村田 耕平 殿

三宮ブックス社長



### 感謝のことば

日本出版取次協会副会長 奥村 景二  
(おくむら・けいじ)

本日新たに十八名の方が出版平和堂にその名を刻まれ、合わせて一、二二名のご芳名が永く後世に伝えられることになりました。出版文化と出版界の発展のため、誠心誠意ご尽力されたいみなさま方に、心からの敬意と感謝を申し上げます。

本日、この顕彰会は実に三年ぶりの開催となったわけでございますが、それは申し上げるまでもなく、新型コロナウィルス感染症拡大の影響によるもので

ございます。世界規模の蔓延から早二年あまり、世界中の叡智を集集してもなお、終息の兆しは見えませんが、そして、今年二月にはロシアによるウクライナ侵攻が勃発し、世界をさらなる混沌へと落とし入れました。日々、国内外から届く痛ましいニュースを見るにつけ、命と自由の尊さ、さらにはその儚さというものを、痛感せずにはいられません。私たちの足元の出版業界を見ましても、その状況は年々厳し

さを増しております。出版物の販売額は加速度的に減少を続け、物流面の課題もいまだ山積しています。また、情報通信技術の発達により、人々が情報に触れる方法も、速度も、大きく変わりました。出版物もまた、デジタル化やコンテンツビジネスなど、さまざまな転換を求められています。

しかし、そのような困難の多い時代だからこそ、私たちは決して希望を失うことなく、仕事を邁進せねばなりません。なぜなら、本というメディアは、自由と平和の象徴であるとともに、困難な時代を生き抜くための力を与えてくれるものであるからです。誰もが自由に本を手に取り、知識や文化、情報を得ることができる環境を、永きにわたって守り抜くこと。それこそが、私たちが全うすべき使命です。これから先も、本が人とともにあり、人の心の成長を支えてくれる存在であり続けられるよう、先達が築いてこられた礎を、ためめぬ努力と創意工夫によって、私たちが受け継いでいくことを、ここにお誓いします。

本日、この箱根の地において、ご家族ご列席の中、十八名の方を顕彰するにあたり、私たちの決意と感謝のことばを捧げます。



### 献杯

日本書籍出版協会理事長 小野寺 優  
(おのてら・まさる)

本日、実に三年ぶりとなる出版功労者顕彰会が開催され、新たに十八名の方々が顕彰されました。第五十四回顕彰の方々に加え、本来であれば前回、前々回に顕彰される予定だった方々のご芳名も出版平和堂に刻まれ

ることとなり、なにか胸のつかえが下りたような気がいたしました。長年に亘り出版文化の発展にご尽力された皆様には、あらためて敬意を表するとともに、心より感謝を申し上げます。

出版界は今、かつてないほどの変革の時にあり、さまざまな課題が山積しています。それに立ち向かうにあたり、私たちは今一度、先達の御功績を振り返り、それを礎としてより豊かな出版の未来を切り拓いてゆかねばならない、と強く思います。

それでは、ご家族、関係者の皆様、並びに本日もご参集いただいた皆様のご健勝を祈念して、献杯したいと思います。



## 出版平和堂



問い合わせ：一般財団法人日本出版クラブ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル 5F

TEL 03(5577)1771 <https://www.shuppan-heiwado.jp/>





進行役の吉野和浩・出版平和堂委員

本日、「出版平和堂 第五十四回 出版功労者顕彰会」におきましては、本当にたくさんの方々にご出席をいただき、盛大に催すことができました。厚く御礼を申し上げます。本日は、今年の第五十四回の四名の方、そして、昨年の第五十三回が十名、一昨年の第五十二回が四名、併せて十八名の方を顕彰させていただきました。今日は朝から雨が降っておりまして、またコロナ禍ということもあって、大変なところを皆さまにご出席いただきましたこと、改めて厚く御礼を申し上げます。



## 閉会のことば

出版平和堂委員長 大坪 嘉春

（おおつば・よしはる）

戦前・戦中・戦後と、出版界の先輩方がいろいろと苦勞され、平和でなければ出版は繁栄しないということ、そして、版元・取次・書店が、みんな仲良く手を取り合って業界全体を盛り上げていかないと出版業界は発展しないということを考え、この出版平和堂をつくられました。今日、平和であること、それから業界の繁栄ということについてどういうことを基礎に考えていかなければいけないかと、改めて実感させられたところでございます。

お堂のなかをご覧いただきまずと、一、二二名の記銘板が掲げてあります。残りのスペースはあと六十名分ぐらいしかありません。将来のことを考えますと、六十名分のスペースではやはり足りないということ、出版平和堂委員会では、記銘板設置スペースの増設を計画しております。建物の耐用年数につきましては、普通の建築物と違い、出版平和堂には給・排水設備や電気設備がないため、あまり傷んでおりません。従ってき

ちんとメンテナンスをすれば、あと三十〜四十年は持つといわれています。

そこで来年、壁の両側下段一列ずつ増設をおこない、片側が八十ぐらいで、両側併せて約百六十名分のスペースをつくらうと思います。それに今の六十を加えると約二百二十名分となり、それであと二十年ぐらいい何とかなるのではないかと考えております。そのあとのことにつきましましては、建物の耐用年数のこともありますので、ここいらっしやる後輩の方々に、あとを託するというところになるかと思えます。

今後発生する工事をおこなう資金のことを考えますと、出版平和堂委員会とは別の組織で、出版平和堂維持会という会がございます。維持会は、皆さまからご寄付を募り、それを基に出版平和堂を維持していこうという会でございます。維持会は、この出版平和堂と共に生きていくことになると思います。皆さま方には、平和堂維持会からご案内がまいましたら、出版平



和堂が維持できるように応援してやろうというような気持ちになっただいて、ぜひご協力のほどをよろしくお願いしたいと思います。

今後とも、出版功労者顕彰会、それから出版平和堂の維持に、皆さまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の締めのごあいさつといたします。ありがとうございます。

### 出版クラブ維持員動静

▽電話・FAX番号変更  
教育評論社

TEL 03 (3241) 3485  
FAX 03 (3241) 3486  
富士経済グループ本社  
TEL 03 (3241) 3470  
FAX 03 (3241) 3471

## 出版記念会

喜びを分かち合える出版人のホールでお祝いの会を。

★会報「出版クラブだより」にてご紹介して、祝賀申し上げます。



## 受賞祝賀会

受賞の栄誉に輝く喜びを祝賀する集いに、出版クラブホールを。

★ご案内状の作成、印刷、宛名書き、贈呈記念品、花束など、お手伝いのむきもお申しつけ下さい

●ご予約・お問い合わせ

出版クラブホール

Tel 03(5577)1511 千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル

PHOTO: 講談社写真部

文学と言葉>  
**小さな本の展覧会 13**

**造本装幀びっくり箱**

子どもたちへ>  
2022年 第55回造本装幀コンクール作品から

会期: 2022年10月24日(月)~11月30日(水)

10:00~18:00(土日祝はお休みします) 入場無料

会場: 出版クラブビル 3Fライブラリー(神保町)

■出版クラブホール・会議室 利用者だより

## トークショー会場として

# 最高の場所である理由とは!?

日本文芸社 松下 憲一

(まつした・けんいち)

私の所属する日本文芸社は1959年創業の総合出版社です。主な刊行物は『週刊漫画ゴラク』をはじめとした雑誌、そして実用書を中心とした書籍です。

いきなりマイナスイナスなことを書いてしまいますが、出版業界が厳しくなってきたと言われて久しくなりました。例えば、電車に乗ればほとんどの人がスマホを見ていて、紙の本や雑誌を手に入れている人は稀です。紙媒体の刊行物のみを世に送り出すだけでは、出版社は人々のニーズから外されてしまう時代です。

そのような状況のなか、弊社紙媒体以外の事業の一つとして2018年より『ラブすぽ』というスポーツ全般を取り扱うWEBサイトを立ち上げ、今日まで運営を続けています。プロ野球記事の配信、現役選手へのインタビュー・動画配信、ゴルフレッスン記事や動画、新しいスポーツグッズ紹介、スポーツ業界の裏方として働く人々の紹介、スポーツに繋がる健康情報

など様々なスポーツにまつわる情報を提供しています。

そして、この『ラブすぽ』のオフラインイベントとして長く続けているのが『ラブすぽトークショー』です。主にプロ野球関係のゲストをお呼びして、トーク&ツイショット写真撮影を来場したお客様に楽しんでいただいています。

そのトークショー会場として出版クラブビルを使用させていただいています。以前は神楽坂にありましたが、神保町駅近くに移転されたことでアクセスがより良くなり、また新しくきれいな会場はゲストやお客様にとても評判が良いです。

トークショーの運営を行うなか、イベントが成功するために必要な要素は大きく以下の3つだと感じています。

- ・ゲストに集客力がある
- ・司会者(MC)のトーク技術
- ・&ゲストに関する知識量
- ・会場の雰囲気が良い

ここでは、この「会場の雰囲気が良い」という点を少し深掘

りしたいと思います。雰囲気というのには多くの要素によって作られる総合的なものです。分かりやすいところでは「広さ」「見栄え」など。細かい点では「ト

せんが、決してそうではありません。他会場でもトークショーを何度も行ってきたので分かっています。

また、もう一つ大きい雰囲気



イレがきれい」「自動販売機がある」「喫煙所が設置してある」など。これを出版クラブビルは全て備えています。当たり前のように思う人もいるかもしれま

しません。お客様は会場の雰囲気を総合的に受け止めて「楽しかった、また来よう」と思ってくれるものです。

また、個人的に3Fのエント

ランスがとてもカッコ良く出版を表現していて大好きです。「トークショーはイベント会社が行うもの」という先入観を持っている方も多いと思いますが、日本出版クラブで行うことで「出版社が主催しているイベント」ということがお客様に自然と伝わります。

最後にこれはたまたまでしょうが、日本出版クラブの多くの方々が「野球が好き」なのが嬉しいことです。夏に元・ヤクルトの宮本慎也さんや元・阪神の鳥谷敬さん(写真)といったゲストをお呼びしましたが、担当の山本寛之さんがこの2人のことを詳しく知っていましたし、専務理事の横川裕史さんも大の阪神ファンでした。趣味は人それぞれなので、野球に全く興味のない人だって多いもの。それでも「ゲストの存在を共有できる人々がいる」という幸運にも感謝しています。

スマホから流れてくるオンラインコンテンツを見聞きすることが主流の時代になりましたが、その反動として人はオフラインイベントを欲する状態が生まれています。その拠点として、今後もっともって日本出版クラブから様々な形態の「楽しいこと」が発信され続けることを期待しています。

(日本文芸社ライツコンテンツ部)

# 『出版クラブだより』とともに —上毛印刷が歩んできた道のり—

大澤 丈太

(おおさわ・じょうた)

弊社は昭和35年8月20日設立、創業から62年になりました。その大半である40年という長きにわたり『出版クラブだより』の製作に携わらせていただき、たいへん感謝しております。

創業者である、父・大澤拓郎が本年8月24日に91歳で他界しました。父の人生そのものであった上毛印刷株式会社(以後上毛印刷)を改めて振り返りたいと思います。幸いなことに父は創業から社長を降りるまでの間を克明に書き残しておりました。物語は、大澤拓郎17歳(昭和23年)の春、地元群馬県の印刷所に勤めたところから始まっています。

第一期【昭和26年〜昭和39年頃】  
昭和26年に20歳で東京に上京し、創業までの9年間は創業資金を貯めるために少しでも給料の高い印刷所に職人(植字工)として渡り歩きました。その後母と結婚し、郷里より弟を呼び寄せ、昭和35年8月に、上毛印刷は、父、弟と父の職場仲間1名、母の4名で仕事を始めます。社名にある通り、母以外の3名が群馬県出身です。

創業時設備は、中古四六版四切凸版印刷機(B4版)、手キーン(名刺・はがき用印刷機)、活字、組版材料、活字ケース、植字台を50万円で購入したと記されています。



父(右)とともに

初めてのお得意様は、母が創業まで勤めていた会社だったとあります。この頃は昼間に不慣れな営業をし、夜は弟(職場仲間)は1年ほどで病気を理由に上毛を離れています(一緒に印刷機を回す生活が続きました)が、少しずつ仕事が増えていき、少しづつ仕事が増え、仕事が

増え、しかしながら、仕事が増え、活字を買わないと組版ができない、用紙を買わないと印刷ができないと、それを買うためにお金がなくて苦労をしたようです。実際には、母の父(義

父)に借金をお願いして、借りては返し、借りては返しを繰り返していました。昭和38年売上1,930万円・利益5万5,000円とあります。

第二期【昭和40年代〜昭和59年頃】  
日本の高度成長期とともに仕事は順調に伸び、昭和43年には新宿にあった「うたごえ喫茶」の歌集(B7版80頁・5冊1セット)を受注し、数年にわたって納めたとあります。昭和45年、売上6,943万円・利益11

0万円となっていました。昭和46年には印刷工業組合に加入しました。この頃から組合誌や業界誌の「ホット(活字)よ、さようなら」「組版は活字から写植に」などの見出しを見

ること、活字・活版から写植・平版さらには、コンピュータを使うことを意識していたようです。また、端物(名刺・封筒・伝票など)の印刷から脱出を図ろうと会社案内を作成し、その時に「文化と情報をつなぐ」という上毛印刷のキャッチコピー

が生まれました。このコピーは今でも使用しております。昭和49年、端物印刷からの脱出が本当にかなう大きな転機が訪れます。古書店を営んでいた父の友人の紹介で、日本古書通信社様の月刊誌「古書通信」を受注することができたのです。

古書通信は現在(48年間)も上毛印刷で製作しています。この仕事をいただいたことで、端物印刷から頁物印刷への転換の道筋がついたといえます。以降「古書通信」を通じて古書店目録を長年にわたって受注することになりました。その流れは現在も変わっていません。また、昭和57年には、組版を専門としていた同業他社を吸収することで、『出版クラブだより』を受注することができました。

この昭和57年には、生産設備を活字からコンピュータ組版への移行を始めています。電算写植編集機1台とワープロ3台、コンピュータ1台の体制でスタートしました。

第三期【昭和60年〜】  
昭和57年以降、人員の転換や設備更新・廃棄とそれこそ「産業構造大変革」と言っている時期を乗り越え、7年後の平成2年7月に活字を全廃しています。それ以降も技術・設備は日々進歩しており、生産性向上や技術革新のための投資や人材の教育を積極的に行っていました。平成29年、埼玉県戸田市に

印刷工場を新設し、現在に至っております。  
父の人生にも大きな変化がありました。平成元年(56歳)、病気の後遺症で両方とも耳が聞こえなくなり、平成19年(78歳)まで社長として上毛印刷を率いていました。失聴後は、会社のことは私に任せることが多くなり、母や友人たちと海外へ山へと人生を悲観することなく、心豊かに過ごしていました。私とは、緩和ケア入院時に差し入れたカツサンドをほお張りながら「商売はどうですか?」と笑って言っていたのが、最後になりました。

将来に向けて  
上毛印刷は、父の夢であった端物印刷から頁物印刷を経て、総合印刷(カラー印刷)まで手がけることができるようになりましたが、これから先「文化と情報をつなぐ」とはどんな印刷会社なのだろうかと考えます。印刷会社ではないのかもしれない。次の目標は「時代に応えられる総合情報会社へ」でしょうか。この62年間上毛印刷はいつも変革の中にありました。それはこれからも変わることはないと思っています。

最後に父・大澤拓郎が生前に賜りましたご厚情に深謝いたしますとともに、改めて日頃のご愛顧に御礼申し上げます。  
(上毛印刷社長)

# 出版 歳時記

▽YouTubeの「有隣堂」が知らない世界がおもしろい。「つい見すぎて寝不足になる」とこぼす友人もいる。「コンテンツマーケティング・グランプリ2021」の動画コンテンツ部門でグランプリを受賞したことからも、質の高さは証明済みだ。

▽実際、ファンが急増中で、9月末でチャンネル登録者数は出版業界屈指の17万人。ひそかに目標とする「トヨタイムズ」は23万人だが、「編集長」の俳優香川照之さんの降板もあって、横浜の本屋さんで世界のトヨタを追い抜く日が来るかもしれない。筆▽トヨタ自動車といえば、筆者は講演するとき、出版業界全体の売上高をトヨタと比べて説明することがある。どのくらい違うか。読者のみなさんはご存じですか。

**編集雑記**

☆巻頭特集で「出版平和堂 第54回 出版功労者顕彰会」当日の維持団体トップの方々の会場で「のスピーチを掲載しました。あいにくの土砂降り、気温10℃という悪天候にもかかわらず、ご出席いただいたみなさまありがとうございます。新しい読書推進キャンペーン「秋の読書推進月間」が10月27日に始まりました。名称

022年3月期の連結売上高が31兆円余り。日本の出版社3千社以上がたばになっても、その20分の1である。そこで「出版はちっぽけな産業だけれど、1冊の本があなたの人生や社会を変えることがある」と締めめるのだが……。

## 有隣堂がトヨタを抜く日

▽話を戻すと、「有隣堂しか知らない世界」は毎回、ゲストが自分の手がけた本や文具の魅力を語る。そこに、オレンジ色をしたミミズクの着ぐるみ姿のMC「ブッコロ」が毒舌のツッコミを入れる。

▽「最強はどれだ 油性ボールペンの世界」の回では、文具売り場担当の社員がいちばんの売れ筋は三菱鉛筆「ジェットストリーム」ですと紹介し、ブッコロも絶賛。その場でライバル商品「アクロボール」を発売するパイロットコーポレーションに電話し、丁丁発止のやりとりを繰り広げるのだ。こんな失礼なことって大丈夫かなと、見ているこちらがハラハラする。

は「本との新しい出会い、はじまる。BOOK MEETS NEXT」。運営主体が異なる「読書週間」「本の日」、各地の読書推進運動などと連携し、一致団結した読書推進キャンペーンが全国一斉に開催されています。関係者の皆様はさぞかしご苦労があったことと思いますが、業界が一丸となって取り組むことは大変意義深いと思います。書店店頭の活性化につながることを願っています。

▽8年ぶりに全面改訂した「学研の図鑑LIVE」の回には「昆虫」の編集長が出演。実は虫をさわれないほど苦手だったと告白しつつ、日本の本格図鑑で初めて、数千種類すべての虫の写真を生きた状態で撮影したと誇る。蝶は鱗粉がきれいに写るよう、サナギから育て、羽化したところをパチリと。「ウソだろ」と仰天するブッコロ。

▽書籍広告はかつて圧倒的に新聞だった。だが、新聞の媒体力低下で、各出版社は広告出稿を減らしている。書店も活字離れとAmazonに挟み撃ちにされ、閉店が相次ぐ。そんな中で「有隣堂しか知らない世界」は、松信健太郎社長が「新しいことにチャレンジして成功体験を」と音頭を取り、始まったという。

▽明治期に創業し113年になる老舗がインターネットの世界に乗り込み、オウンドメディアで、Amazonではなくリアル書店しか知らない世界を見せかけてくれる。頼もしいじゃないか。がんばれ書店、がんばろう出版業界。(電)

☆出版クラブの今年度上半期の収支がまとまりました。事業活動収支は事業復活支援金の支給もありかるうじてプラスに。当期収支は黒字となりました。維持員社の皆様のご支援、ホール・会議室のご利用に厚く御礼申し上げます。

☆来年2023年は、出版クラブ創立70年という記念すべき年となります。今後ともご支援ご鞭撻のほど、何卒よろしく願います。(横)

**出版クラブホール・会議室は神保町に移転して、はや5年目を迎えました。出版記念会や各種会議・セミナー等皆様のご利用をお待ち申し上げます。**

**出版クラブホール・会議室**  
 PUBLISHERS CLUB HALL  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32  
 出版クラブビル  
 TEL 03-5577-1511/FAX 03-5577-1772  
<https://shuppan-club-hall.jp/>  
 神保町駅(東京メトロ半蔵門線、都営新宿線・三田線)  
 A5 出口より徒歩2分



発行所 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-1 一般財団法人 日本出版クラブ TEL 03(五五七七)一七七一(代) FAX 03(五五七七)一七七二 発行人 横川裕史 印刷所 上毛印刷(株) 頒価 100円